

# 北の大地から：支部長のひとりごと



坂 入 正 敏

面積 83424 km<sup>2</sup> (日本国土の約 22.1 %), 鉄道路線 14 路線で総延長 2535.9 km, 道路実延長は約 90560 km (国道は約 6361 km, 道道は約 11890 km, 市町村道は約 71126 km) である北の大地が北海道です (北海道のホームページより)。ちなみに国鉄が民営化される前の 1974 年頃の総延長は 4000 km で, この 50 年で鉄道の総延長がほぼ 6 割になり, 列車の本数も大幅に減便されています。近年は雪による運休や遅延, 施設の老朽化と思われる故障による遅れや事故も多くなっています。更に, 列車の代替手段であった高速バスの便数も減っています。このように, 北海道は広大な大地と自然豊かである一方, 公共交通機関による移動が非常に困難な地域です。

他の学協会でも同様ですが, 日本分析化学会北海道支部は全国の支部の中で一番小さな支部です。支部会員数の一番少ない弱小支部ですが, 地理的・歴史的な条件から, 支部活動は活発でした。年 2 回支部の研究発表会 (1 回は日本化学会北海道支部の共催) や氷雪セミナー (シニア向け) と緑陰セミナー (ヤング向け), 公開セミナーなどを実施してきました。化学教育にも力を入れており, 日本化学会北海道支部と合同で北海道地区化学研究協議会を開催してきました。この会は, 小中高の化学教育に携わる教員が同じテーマで議論するユニークな取り組みです。この会の中心で活躍しているのが本会北海道支部の会員です。さらに, 支部企画の分析化学関係の出版, 7 年ごとに討論会と年会を開催させて頂いてきました。道内の移動に数時間を要するにもかかわらず, 討論会や年会などを支部で担当する際は, 遠方から支部会員が会場の場所に駆けつけ, 北海道の広さを感じさせない状況でした。しかし, この数年は支部会員の高齢化と減少等により, これまでの活動を維持するのが厳しくなりつつあります。

さて, 2020 年第 80 回分析化学討論会 (北海道教育大学) は, 直前に世界中を巻き込んだ新型コロナウイルスによる暴風雪のため, 現地開催中止となりました。支部として万全の体制を整えて準備していたのですが, 大変残念な結果となってしまいました。5 月は雪もほとんど無くなり, 日も長くなるため, 雪や氷のアクティビティを除くと, 北国の一番良い季節でしたが, 全国からお越し頂くことはかないませんでした。さて, 2025 年 9 月に第 74 年会が北海道大学 (北海道札幌市) で開催予定です。前述のように支部会員の状況は変化していますが, 渡慶次実行委員長 (北海道大学) のもと支部一丸となって準備を進めています。コロナ禍を多くの方が遠い過去のものとして捉えられていると思いますので, 是非, 年会に参加して頂ければと思います。9 月は秋の収穫時期ですので, 食材の宝庫で日本の食糧基地である北海道にお越し頂き, 対面での研究と食について活発な議論をして頂ければ幸いです。

まとまりのないと文章になりましたが, 2025 年 9 月に北の大地でお会いできることを楽しみにしております。

[SAKAIRI Masatoshi, 北海道大学, 北海道支部長]